

2014年6月28日

河北潟干拓土地改良区理事長 焼田宏明 殿

河北潟自然再生協議会  
代表世話人 小谷達郎

## 河北潟干拓地における太陽光発電施設の建設にあたり自然環境への配慮を求め る要望書

河北潟干拓地は、農地であるとともに、多くの野生生物にとって重要な生息環境です。特に河北潟干拓地内の未耕作地や排水路沿いに広がるヨシ原は、石川県指定希少野生動植物に指定されている猛禽類のチュウヒにとって営巣地や餌場として無くてはならない環境です。その他、オオヨシキリやコヨシキリ、ツバメなどの鳥類、タヌキやキツネといった哺乳類の生息場所としても重要です。

北國新聞6月27日朝刊において、河北潟干拓地において太陽光発電施設を建設することが報道されました。農家の負担軽減を図ることを目的として計画されたものであり、河北潟自然再生協議会として建設自体に反対するものではありませんが、太陽光発電には通常広い面積を必要とすることから、野生生物の生息空間を守ることとの競合が生じる可能性があります。

先に述べたとおり、特にヨシ原は野生生物の生息環境として重要ですが、干拓地内の未利用地であることから建設場所の候補地となることが懸念されます。そこで干拓地の自然環境としての質が保全されるよう、以下について要望します。なお、本要望書は6月28日に開催された河北潟自然再生協議会通常総会の特別決議に基づき提出するものです。

1. 太陽光発電施設の建設にあたっては、できるだけ自然環境に配慮した計画とし、まとまったヨシ原を保全すること。
2. 事業実施にあたっては、河北潟自然再生協議会やその他、グリーン・アース農地・水・環境保全組織に参加する団体との整合を図ること。
3. 自然環境・野生生物の分野の専門家に聞き取りをおこなうなどして、その意見を事業計画に活かすこと。